

C-7 ニットの縫製に関する研究 第一報 ニットの伸度について
東京学芸大 石毛フミ子 ○森谷多恵子

目的 近年、衣服素材としてニットは広く普及してきている。織物と異なるニットの特性に適合した家庭縫製について、多角的な研究が必要であると考へ、実験、検討を試みた。第一報としては、ニットの特性である伸びについて、自重、縫合による伸び、ニットの表地に対する芯地や裏地の伸び、ゆとり量について研究した。

方法 素材は、ジャージイ（毛100%）、（アクリル70%、毛100%）の2種を用いた。自重による伸びは、長さ100cm、幅25cmの試料を3日間、吊り下げ、伸びを測定。

縫合による伸びは、30cmの試長を針目の大きさ、押え圧、縫い速度を3段階に変化させて縫い、その伸びを測定。芯地は、木綿、メリヤス、不織布の3種の接着芯地を用い、表地に接着し、破断強伸度を測定。裏地はシボン（キエプラ100%）、ファンファン（ポリエステル100%）、ストレッチ（キエプラ100%）を用い、表地と両端で固定し、破断強伸度を測定。

結果 自重による伸びは、毛100%の方が大きく、布目方向では、ヨコ、バイヤスの上部の伸び率が大きい。縫合においては、ヨコ方向の伸びが大きい。芯地接着後の伸びは不織布が表地に対応して伸びが大きい。裏地はストレッチが伸びが大きい。ヨコの伸びの大きい表地に対し、裏地をつける場合は、動作範囲の大きい衣服部位では裏地の布目方向、およびゆとり量の考慮が必要である。